

編集後記

暑中御見舞申し上げます。

“終末ケア”を特集テーマに選んだのは、筆者自身が、最近、たて続けに、寝たきり老人、PMD、骨肉腫による切断、癌転移による脊損患者等の死に接し、いろいろ考えさせられたのがきっかけである。“終末ケア”は、本誌でははじめてのテーマでもあるし、正直のところいささか不安も感じていたが、しかし、読みはじめるや否や吸い込まれるように一気に読んでしまい、しかも読後に、何か新たなふくらみが生じたような充実感を感じている次第である。砂原先生には“尊厳死を巡って”リハとのかかわりを中心に解説して頂き眼前の霧が晴れる思いである。PT、OT 諸氏の論文、随想も、人間にとって一番大切な生をどう生き、どう死に至るかを真摯に追求し、体当たりで援助しようとしている姿は読者に感動を与えずにはおかない。

“障害の受容”ということが、障害を持ちながらも、どうより良く生きぬくことかということからすると、究極的には死の受容へとつながってくるといえるのではない

だろうか。すなわち、どう生きるかを死ぬ瞬間まで追求することであり、これは尊厳死にも通ずることかと思う。“死から目をそらせては生を語ることはできないし、リハにかかわることもできない”という砂原先生の言葉をもう一度噛みしめたい。

蜂矢先生の「とびら」の“治療者・援助者の落とし穴”も、日頃気付かずに見過ごしてしまいそうな大事なポイントである。人間の深さ複雑さを知るほど、援助の難しさに身の引きしまる思いにかられる。障害者の真のニーズを探るために、注意深く耳を傾けることから始まり、援助者自身の価値観、人間性にも迫るものが期待されているのである。

「講座」“歩行”は6. 失調性歩行、パーキンソン病歩行、“手指の障害学(基礎編)” 1. 手指の機能解剖(3)で前腕、手関節の解剖についての解説である。いずれも、繰り返し、確認すべき基礎知識である。臨床に、教育に活用されたい。

(福屋 靖子)

理学療法と作業療法

(第20巻 第8号)

1986年8月15日発行(毎月1回15日発行)

1部定価 1,250円(配送料60円)

(年ぎめ予約購読料 15,350円)
(ただし、特別増大号を含む)
(送料弊社負担)

発行 株式会社 医学書院

代表者 椿 孝雄

〒113-91 東京都文京区本郷5-24-3

電話 受付台 (03) 817-5600

本誌編集室直通 (03) 817-5703

(担当: 西塚・細田)

販売部直通 (03) 817-5659・5660

広告室直通 (03) 817-5696

ファクシミリ (03) 815-7802

振替口座 東京 7-96693番

印刷所 ㈱学術図書印刷 電話(03)814-4961

広告申込所 ㈱医薬広告 電話(03)814-1971

Published by IGAKU-SHOIN Ltd. 5-24-3 Hongo, Bunkyo-ku, Tokyo © 1986,

Printed in Japan

本誌の内容を無断で複写・複製・転載すると、著作権・出版権の侵害となることがありますので御注意下さい。

<編集顧問>

天 児 民 和
九州労災病院名誉院長

五 味 重 春
東京都立医療技術短大

砂 原 茂 一
国立療養所東京病院名誉院長

津 山 直 一
国立身体障害者リハビリ
センター病院長

(五十音順、以下同じ)

<編集委員>

上 田 敏
東大リハビリ部

荻 島 秀 男
ペインリハビリテーシ
ョンクリニック高島平
整形外科

大喜多 潤
兵庫県リハビリセンター

寺 山 久美子
東京都立医療技術短大

富 岡 詔 子
信州大学医療技術短大

奈 良 勲
金沢大学医療技術短大

福 屋 靖 子
筑波大学

松 村 秋
東京都立医療技術短大

<編集同人>

池 松 洋 子

伊 東 元

岩 崎 テル子

宇都宮 初 夫

金 子 誠 喜

鎌 倉 矩 子

木 村 信 子

菊 地 延 子

小 嶋 裕

斎 藤 みち子

鈴 木 明 子

高 橋 正 明

田 橋 元 隆

古 川 宏 博

松 沢 和 子

宮 崎 珠 子

宮 前 貞 雄

山 田 令 子

矢 谷 子